【校是】質実剛健　報恩感謝
佐賀県立武雄高等学校
TAKE OFF press
校長通信　NO.14　R5.10.15
TAKEO Future Frontier
学校 HP
文責　学校長　下村　昌弘
E-Mail　shimomura-masahiro@education.saga.jp

“習慣”は力だ　－秋は習慣づくりにふさわしい季節－

思考力、判断力、表現力…。皆さんも通知表でよく目にしている言葉だと思います。このようにして使われる「力」とは基本的に「能力」という意味で使われています。

このことに関して詩人の長田弘（おさだ）さんは“「力」とは「能力」のことではなく「習慣」のことではないか”（『なつかしい時間』岩波新書）と書いていました。

私も比喩的に「生活を“1 度”変える」という言い方で継続の大切さを述べたことがあります。ここで言う「1 度」とは「1 回」という意味ではなく「角度を 1 度だけ、ちょっとだけ変えてそれを習慣にする」という意味です。

1 週間ではその差は分かりませんが、継続すればするほどその角度が生み出す高さは顕著になってくる、そんなイメージです。ハードルは低いほうが継続しやすい。そして継続すればするほどその差は大きくなる。この継続こそが「習慣」であり、「習慣」が「力」になるのです。

「人の個性、社会の個性、文化の個性を、ゆっくりと確かにしていく『習慣』の力、日々をゆるやかに支えるものとしての『習慣』の力に、もっともっと自覚的でありたい。『習慣』は人を裏切らないからです。」（長田弘　前掲書）

一人一人の習慣がゆっくりとつながりあってその集団の文化ができるのだろうと思います。9 月の武陵祭文化の部のオープニングで私は「文化とはその組織や集団が大事にしているものがにじみ出たもの」と言いました。

「ちょっとだけ頑張ってみる」「遅刻しない」「言い訳しない」。場合によっては重い内容かもしれませんが、一人の習慣がつながりあって教室の文化となり、学校の文化となる。

「習慣は人を裏切らない」。静かだけどいい言葉ですね。

どうか皆さん、この言葉を心の中でつぶやいてみてください。きっとほんの小さなことでもいいから続けてみようかなという気になってきます。習慣化されるまで積み重ねられた日々の姿勢が自信になります。そしてその積み重ねようとする雰囲気、考え方、生き方が武雄高校の文化になればと思っています。

実りの秋はこれからです。勉強に、課外活動に、少しずつ頑張れ、武高生！

学校生活をビジネスに生かす　－高校生起業家からのメッセージ－

高校 2 年の夏に昆虫食のビジネスを立ち上げ、3 年の春には環境問題をテーマに学生のアイデアを企業に提供し就職につなげる仕事をスタートさせる。そんなちょっと“時代の先を行く”高校生活を送った江口凱城（よしき）さん（令和 5 年 3 月卒）にお話を聞きました。

江口さんが会社を立ち上げる意識を持ったのは小学生のころ。じっとしていることが嫌いで幼い頃の母親に褒められた経験を基に自分の発想に自信を持ったそうです。商品開発をしては企業に問い合わせる。家ではビジネス、学校では授業と部活。高校生のうちに起

業しお金を稼ぎ始めた江口さん。そんな江口さんにとって学校とは何だったのでしょう。

「授業はおもしろかったです。生物とか歴史とかビジネスに生かすチャンスをたくさん感じました。それに先生との会話を楽しむというか、そういう時間でした」

夜、自宅でのビジネスの時間はいわば論理的な思考の積み重ね。だからこそ昼間のいろいろな授業や部活動が江口さんの感性を刺激したのでしょう。ある意味、多くの高校生が囚われる受験という呪縛から解き放たれ自分の好きなことにエネルギーを注ぎ込む理想的な高校生活と言えるのかもしれません。

江口凱城さん

それにしても江口さんの足跡はまさに“探究”そのもの。自分の興味・関心のある分野を深掘りし、ビジネスチャンスを広げていったわけです。教科の学習をヒントにしながら、昆虫食の開発の際には九州大学のラボ（研究室）に直接アポ（連絡・約束）を取って成分分析を依頼し自らも専門的な勉強をしたとか。

皆さんも自分の深掘りするポイントを探すべく教科の勉強、課外活動に勤（いそ）しんでください。受験勉強は目的ではありません。本当の目的は自分の人生を切り拓くこと。そのために学問内容やそこに培った考え方を使うのです。“探究”がそれを可能にしてくれます。

〈江口凱城さんから皆さんへのメッセージ〉

高校生はそれだけでブランドです。高校生というだけで企業や自治体の方は面白がって会ってくれます。高校生というだけで話題になるのです。だからこそ高校時代に思い切って動いてみてください。人に会い人脈を作る。それがきっと陰に陽に役に立つ。要は中途半端な気持ちでその取組をうやむやにしないこと。探究も受験もそういうものです。

たけおっ子の主張　－地域とつながることの意味－

10 月 8 日（日）、武雄市教育の日に開催された「たけおっ子フェスタ」。本校生も「たけおっ子の主張」に“まちづくり参画事業”に取り組んだメンバーの代表として古賀心琴（みこと）さん、本山菜々美さん、吉田光里（みさと）さん（いずれも 1 年）が登壇しました。

3 人は武雄市の小中学生 9 名に先んじて発表。いわば模範演説としての役割を担いました。講評の先生からは「武雄高校生は市内の子どもたちのあこがれ。理想のモデルでした」というコメントをいただきました。

古賀心琴さん

また、会の後半では少林寺拳法部が演武を披露。ものすごい気迫で会場を圧倒。ご覧になった方からは「新聞などで活躍を知っていましたが実際見たのは初めてです。武雄市の誇りです」とご感想をいただきました。

地域とつながる、人とつながることは自分の存在感の認識につながります。皆さんも地域の人たちとつながる取組をぜひ高校時代にたくさん体験してください。

【当面の主な予定（10 月後半）】
16 日（月）月セミ（1･2 年）進路講演（3 年）
19 日（木）芸術鑑賞
21 日（土）全統記述（3 年）
23 日（月）面談週間（27 日まで）
28 日（土）県一斉（3 年、29 日まで）
30 日（月）月セミ

（閑人閑話）
佐賀城本丸歴史館で副島種臣のテーマ展を観た。古川英文副館長のギャラリートークに聞き入った▼「絵画はどこから書き始めてどこで終わったか分からない。書は初筆と終筆が分かる。だからそれをなぞってみてほしい。そうすることで作者と出会える気がする」▼「書は書いてある言葉の意味も大事だが墨とその余白が生み出す空間芸術」▼芸術の秋。奥が深い。ここも深掘りできそうだ。（昌）